

審美と咬合に配慮したインプラント技工  
-近年の動向と傾向をふまえて-

オリオン クリエイティブ デンタル ラボラトリー 代表  
堀尾 浩彦 名古屋市

略歴

- 昭和 36 年 1961 愛知県 名古屋市生まれ 愛知県出身
- 昭和 54 年 1979 愛知県立瑞陵高校卒業
- 昭和 56 年 1981 愛知学院大学歯科技工専門学校卒業  
成田歯科医院 NT デンタルラボ入社、勤務
- 1986 オーストラリア メルボルン 渡豪  
Omega Ceramics Dental Laboratory Pty. Ltd.入社
- 1990 オーストラリア歯科技工士免許取得  
永住権取得  
歯科技工所 APEX Porcelain Dental Studio 開業
- 1994 帰国 名古屋名東区 開業
- 1997 USA シカゴミッドウィンター 参加
- 1998 歯科技工士会認定講師 歴任
- 1999 スタディーグループ JDI 主催
- 2000 ジーシー社 インストラクター歴任
- 2003 韓国 歯科理工学会 四延大学にて登壇  
CAD/CAM 審美について発表
- 2007 リヒテンシュタイン IVOCLOL 社 3DAYS 研修  
Emax Press 研修終了書修得
- 2013 日本口腔インプラント学会 岐阜十六ホール  
インプラント技工について 専門課程講座に登壇
- 2018 現在に至る

歯科インプラント治療の成功の要素の一つに歯科技工の「精度」が挙げられます。

その技工の精度を向上させる為には（具体的に）患者様の資料の採集、治療計画、技工行程の検討が大切です。

トピックは 咬合、形態、色調、審美 です。

この項目をどう捉え、取り組み、そしてその結果として「患者様の満足を得ることが出来るか」考えます。

また近年の急速に進むデジタル化に注目しています。

CAD/CAM、3Dプリンターの利用、口腔内印象法、CTによるトップダウントリートメント、ガイド利用などです。

また、治療データの保存、マネージメント、広告、プレゼンまで多岐に渡り活用と普及が進んでいます。正確で便利だからです。

今後はAIも含め進化して行くと思われれます。

ただ一方では、従来のアナログ法も見直されています。

一般的な絵画やその技法、音楽などの芸術分野で多く見られます。

歯科技工においては、歯牙形態の回復や材料を駆使した色調の再現など、クリエイティブな部分に取入れられています。そこには「本質を大切にしたい」という人間の本来持っている「感性と創造、創意工夫」が技術の向上に繋がるのではないかと、つまり「アナログとデジタルの両立を計ることが成功の鍵」と考えます。

以上を臨床例と共に歯科技工士の立場から解説させていただきます。